

船舶事故調査報告書

平成23年3月24日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委 員 横 山 鐵 男（部会長）
 委 員 山 本 哲 也
 委 員 石 川 敏 行

事故種類	旅客負傷
発生日時	平成22年9月25日（土） 03時08分ごろ
発生場所	東京都八丈町八丈島南南東方沖 八丈島灯台から真方位154°55海里付近 （概位 北緯32°15.3′ 東経140°20.5′）
事故調査の経過	平成22年9月25日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨客船 おがさわら丸、6,700トン 135861、小笠原海運株式会社及び独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 131.00m×17.20m×9.25m、鋼 デーゼル機関、19,859kW、平成8年11月
乗組員等に関する情報	船長 男性 61歳 一級海技士（航海） 免 許 年 月 日 平成9年9月4日 免 状 交 付 年 月 日 平成19年1月25日 免状有効期間満了日 平成24年9月3日 旅客A 男性 63歳
死傷者等	負傷 1人（旅客A）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長ほか43人が乗り組み、旅客555人を乗せ、貨物約16.29tを積載し、東京都小笠原村（父島）二見港から、京浜港東京区に向け、船首右方からの風浪による船体動揺を抑えるため、船速を約13.6ノットに減速して航行した。 旅客Aは、本船が八丈島南南東方沖を北進中、平成22年9月25日03時08分ごろ、小用を終え便所出入口の内開きドアのドアノブに手を掛け、ドアを開けた時、船体が動揺して体のバランスを崩し、同便所前の船内通路を挟んだ反対舷に設置された婦人用便所の鋼製壁に打ち付けられ昏倒した。 旅客Aは、海上保安庁のヘリコプターにより吊り上げられて救助され、病院に搬送されて、頸髄損傷と診断された。
気象・海象	気象：天気 雨、風向 北、風力 12 海象：波高 25日00時 約5.5m、25日04時 約7m 伊豆諸島南部（八丈島）に波浪警報、強風・雷注意報発表中

その他の事項	<p>本船は、25日03時ごろ、船体の横揺れ角度約20°～25°、同周期約10秒、また、縦揺れ角度約10°～20°、同周期約10～20秒で航行していた。</p> <p>本船は、フィンスタビライザーを使用中であった。</p> <p>本船は、荒天のため手動操舵により航行していた。</p> <p>本船は、荒天時の船内歩行に関する注意喚起を船内放送で行っていた。</p> <p>旅客Aは、当時、船内スリッパを履き、スポーツシャツとトレーニングパンツを着用していた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>なし</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、八丈島南南東方沖を北進中、旅客Aが、便所から自室に戻る際、船体動揺により体のバランスを崩し、鋼製壁に打ち付けられて負傷したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が八丈島南南東方沖を北進中、旅客Aが、便所から自室に戻る際、船体動揺により体のバランスを崩したため、鋼製壁に打ち付けられたことにより発生したものと考えられる。</p>	